



1949年 コロンビア大学にて(提供: 京都大学基礎物理学研究所)

# Worldwide Awards

1949年日本人で初めてノーベル賞を受賞した湯川秀樹の中間子論の論文は、創設間もない大阪帝国大学理学部湯川研究室で生まれました。中間子のひらめき⇒理論構築⇒学会発表がわずか1ヶ月半という驚異的なスピードでした。当時27歳という若さでありながら、研究への集中力は、すさまじいものがあったと言います。初代総長の長岡半太郎は、理学部の創設にあたって日本中から新進気鋭の研究者を集め、湯川もその中の一人でした。長岡の建学精神「勿嘗糟粕(常に独創的であれ)」の言葉どおり、湯川は大阪大学での研究を見事にやり遂げ、大きく花開いたということになります。

## 大阪大学が育てた 湯川秀樹の中間子論



1934年 大阪帝国大学理学部本館(中之島)

- 湯川秀樹 略歴
- 1907年 1月23日 東京に生まれる
  - 1929年 京都帝国大学理学部物理学科卒業
  - 1932年 京都帝国大学理学部講師
  - 1933年 大阪帝国大学理学部講師(兼任)
  - 1934年 大阪帝国大学理学部講師(専任)  
中間子論に関する論文発表
  - 1936年 大阪帝国大学理学部助教授
  - 1938年 大阪帝国大学より理学博士の学位を取得
  - 1939年 京都帝国大学理学部教授
  - 1943年 文化勲章受章
  - 1948年 プリンストン高等研究所に招かれ渡米
  - 1949年 コロンビア大学客員教授  
ノーベル物理学賞受賞
  - 1950年 大阪大学名誉教授
  - 1953年 大阪大学湯川記念室発足  
京都大学基礎物理学研究所を新設、所長
  - 1970年 京都大学を定年退官
  - 1981年 9月8日 永眠



### 国際賞



**Nobel Prize**

湯川 秀樹

- 受賞対象研究、研究分野等  
物理学賞『中間子の存在を理論的に予言』
- 受賞年 1949



**Lasker Award**

花房 秀三郎

- 受賞対象研究、研究分野等  
基礎医学研究賞『RNA腫瘍ウイルスによる発癌機構およびウイルスゲノム内に存在する癌遺伝子の役割に関する研究』
- 受賞年 1982



**Gairdner International Award**

審良 静男

- 受賞対象研究、研究分野等  
自然免疫の中核を担うたんぱく質の発見
- 受賞年 2011

# Awards

- ノーベル賞(1名)
- ラスカー賞(1名)
- ガードナー国際賞(1名)
- ウルフ賞(2名)
- クラフォード賞(2名)
- 日本国際賞(2名)



**Wolf Prize**

早石 修

- 受賞対象研究、研究分野等  
医学部門『酸素添加酵素(オキシゲナーゼ)の発見とその構造・生化学的重要性の解析』
- 受賞年 1986

**佐藤 幹夫**

- 受賞対象研究、研究分野等  
数学部門『代数解析学の創始、「超関数と超局所関数の理論、ホロノミック量子場理論、ソリトン方程式の統一理論を含む代数解析学の創造』
- 受賞年 2002-2003



**Crafoord Prize**

岸本 忠三/平野 俊夫

- 受賞対象研究、研究分野等  
インターロイキンの発見、それらの特性決定と炎症性疾患における役割の探求
- 受賞年 2009



**Japan Prize**

岸本 忠三/平野 俊夫

- 受賞対象研究、研究分野等  
生命科学・医学分野  
「インターロイキン6の発見から疾患治療への応用」への貢献に対して
- 受賞年 2011